

The 20th terms

BUSINESS REPORT

第20期 報告書 2019.4.1-2020.3.31

The logo for ULS Group, featuring the letters 'ULS' in a bold, green, sans-serif font. The 'U' and 'L' are connected, and the 'S' has a distinctive shape with a gap in the middle. The background of the entire page is decorated with numerous curved, overlapping lines in shades of green, yellow, and light grey, creating a sense of motion and energy.

GROUP

戦略的ITの実現で、
お客様のビジネスを成功に導く。



ULSグループ株式会社
代表取締役社長

漆原 茂

発注側を支援する「戦略的IT」コンサルティング

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第20期の事業報告書をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当社グループは上場企業である「ULSグループ」を純粋持ち株会社としたITコンサルティング企業集団です。先端テクノロジーを武器に、国内の先進企業を中心としたお客様のビジネス変革を推進してまいりました。おかげさまで今期も業績は堅調に推移し、売上高は過去最高の63億円を達成。利益も8期連続で過去最高を更新する結果となりました。これもひとえに株主・投資家の皆様のご支援の賜物です。重ねて御礼申し上げます。

しかしながら現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるっております。感染症に罹患された皆様、ならびに感染拡大防止のため困難な生活を強いられている皆様に心よりお見舞い申し上げます。当社グループでは社員とその家族、お客様をはじめとするステークホルダーの安全確保を最優先事項として取り組んでおります。既に全社的にリモートワークやマスク着用、手洗い消毒の徹底や3密を避ける行動など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対策を講じております。

今後世界経済の大幅な減速が懸念される中、企業のIT投資も大幅に抑制されます。一方、外出自粛要請を契機として、“働き方”をITで抜本的に見直す企業が増え

ています。最新テクノロジーを活用したビジネス変革、いわゆる「デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）」のニーズは増加の一方であり、まさに当社グループには追い風になります。この状況だからこそ真に大切なものを見極め、私たちにできることを積極的に提案し推進していくタイミングであると前向きに捉えております。

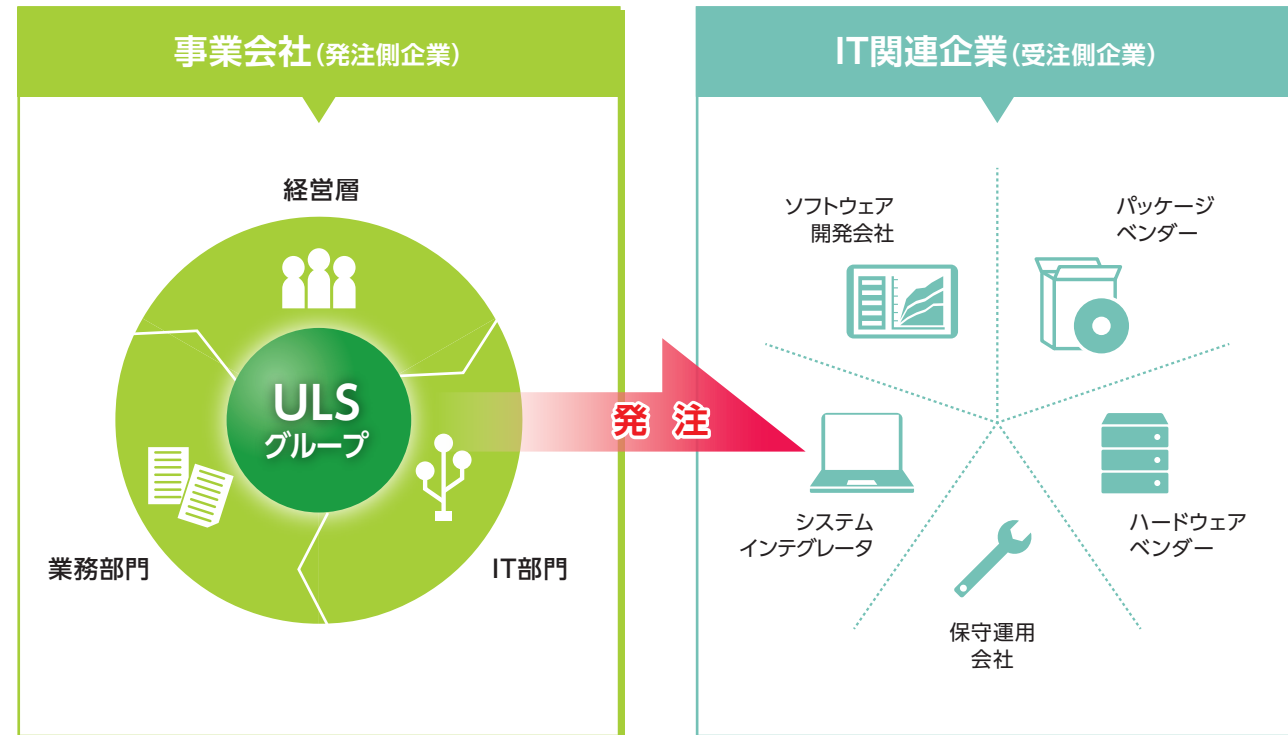
私たちはポストコロナを見据え、既に未来に向かって挑戦を始めております。2020年9月には株式会社アークウェイが当社グループの一員に加わります。DXに不可欠なクラウドアーキテクチャの分野で多数の実績と深い知見を持っており、当社グループ全体のサービス体制が一層強化されます。また、人員の増強にも引き続き注力してまいります。業界内から優秀なエンジニアを獲得し当社グループ内で相互に育成していくことで、より価値の高いサービスを提供するための体制づくりを積極的に進めてまいります。

当社グループ一丸となって社業にまい進し、この困難な時代を乗り越えてゆく所存です。株主・投資家の皆様におかれましては、今後も引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ 発注側を支援し、日本のIT×イノベーションをリードするULSグループ

ビジネス戦略を支え、利益を生み出す戦略的ITは発注側企業のイニシアチブなくして実現しません。しかし多くの日本企業では優秀なIT人材が不足し、外部の専門業者への依存を余儀なくされています。ULSグループは、高度なITスキルと豊富なコンサルティング経験を持った精鋭チームで発注側企業を支援。お客様と価値観を共有し、ITベンダーと相対してシステム開発プロジェクトを成功に導きます。

▶ IT業界におけるULSグループのポジション



▶ ULSグループ構成図



株式会社アークウェイの子会社化

ULSグループは2020年2月、株式会社アークウェイの普通株式を取得し、子会社化することを決議しました。同社はアーキテクチャを軸とした独自の метод論を持つコンサルティング会社です。2004年1月の設立以来、IT資産の最適化と開発生産性の向上に関して多数の実績を上げてきました。アークウェイ社のコンサルタントと緊密に連携することでグループ全体のサービス体制を強化してまいります。



公開分散型台帳技術

ウルシステムズは2019年7月、米ヘデラ・ハッシュグラフ社のシステムインテグレーションパートナーに認定されました。同社が提供する「Hedera Hashgraph」はエンタープライズ分野での利用を想定した公開分散型台帳です。先行技術であるブロックチェーンが抱える性能やセキュリティ、ガバナンスなどの課題を解決しています。仮想通貨やスマートコントラクトなどの用途を想定しています。



データ利活用の実証実験

ウルシステムズは2019年7月、NTTコミュニケーションズ社、ビーグル社と共同で巨樹の会様及び東京巨樹の会様のデータ利活用支援をスタートしました。巨樹の会様及び東京巨樹の会様傘下の病院が保持する臨床データを分析し、得られた知見を使って患者一人ひとりに合わせた治療計画立案やカウンセリングを実施。リハビリテーションプログラムの品質向上を図っています。



セミナー・講演

今年度もカンファレンスやセミナーに多数登壇しました。Developers SummitやITインフラSummitといった日本最大級のITエンジニア向けイベントに登壇。アマゾンウェブサービス社主催の開発者向けイベントでも当社コンサルタントが講師を務めています。



| | |
|------------|--|
| 2020. 2.13 | 翔泳社主催「Developers Summit 2020」 |
| 2020. 1.20 | 日経BP社主催「ITインフラSummit 2020」 |
| 2019.12.18 | 日本Springユーザー会主催「Spring Fest 2019」 |
| 2019.10. 4 | AWS社主催「AWS DevDay Tokyo 2019」 |
| 2019. 9.25 | インサイトテクノロジー主催「db tech showcase Tokyo 2019」 |
| 2019. 7. 2 | ソラコム社主催「SORACOM Discovery 2019」 |
| 2019. 5.18 | 日本Javaユーザーグループ主催「JJUG CCC 2019 Spring」 |
| 2019. 5.17 | 日本オラクル社主催「Oracle Code Tokyo 2019」 |

取材・執筆

各種メディアからの取材・寄稿の依頼にも引き続き積極的に協力しています。今年度は、米国におけるソフトウェア開発の定番書「リファクタリング」が改訂されるにあたり、当社フェローが日本語版の翻訳を担当しました。



当期(2020年3月期)の業績と来期(2021年3月期)の見通し

売上高は過去最高を記録し、利益も8期連続で最高益を達成できました。
先端技術への投資を積極的に進め、さらなる供給能力強化と付加価値向上を図ってまいります。

当期の業績は、主に建設、金融、製造及びサービス業等の主要顧客企業からの引き合いが堅調に推移するとともに新規顧客からの引き合いも拡大したこと、また、これらの堅調な引き合いに対応できる優秀なコンサルタントの採用・育成やパートナー企業の支援確保が概ね順調に進んだことにより、売上高については、前期比557百万円(9.6%)増加の6,387百万円となり過去最高を記録しました。また損益面については、今後の事業拡大に備え子会社の取締役の増員はあったものの、売上高の拡大に加え、プロジェクトの品質管理や効率的なグループ経営の徹底により、営業利益は前期比175百万円(15.1%)増加の1,331百万円、経常利益は前期比172百万円(14.8%)増加の1,334百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、保有投資有価証券の一部で評価損を計上したものの、前期比40百万円(5.8%)増加の738百万円といずれも過去最高を記録しました。

株主還元策について

業績連動型の配当政策を継続してまいります。

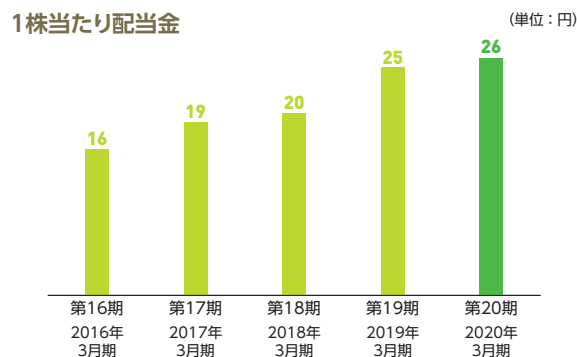
当社は、株主の皆様への利益還元は最も重要な経営課題の一つとして認識しており、現在長期保有の株主様への利益還元策として当面の配当性向を20%~30%とする業績連動型の配当政策を採用しております。

当期は、親会社株主に帰属する当期純利益738百万円となったことから、1株当たり26円(連結配当性向20.2%)の期末配当を実施します。

また、自己株式の取得については、市況等を勘案し適時適切に実施する方針を継続します。

来期は社会の大きな趨勢からデジタルトランスフォーメーションを推し進める企業の増加という大勢には大きな影響はないものと考えられ、中長期的には当社コンサルティングサービスへの顧客ニーズは今まで以上に堅調に推移するものと確信しております。当社グループの持続的かつ中長期的な事業成長の実現のため、引き続き優秀な人材の採用活動及び人材の育成強化並びに品質管理の徹底を推し進めるとともに外部企業とのアライアンスや今後有望と思われる先端技術への投資を積極的に進め、基幹事業であるコンサルティング事業のさらなる供給能力強化と付加価値向上を図ってまいります。

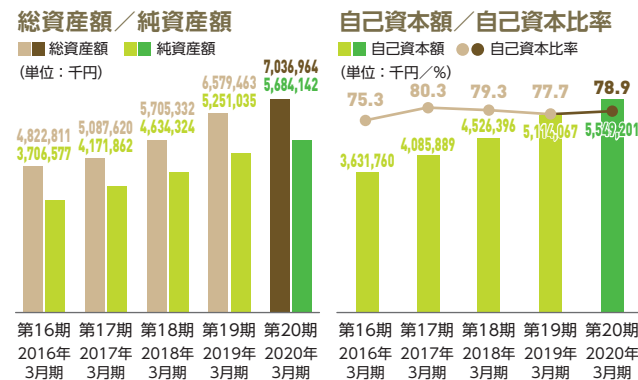
当社グループの来期業績は、売上高が5,850百万円(当期比8.4%減)、営業利益は1,000百万円(当期比24.9%減)、経常利益は1,000百万円(当期比25.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は650百万円(当期比12.0%減)と予想しております。



連結貸借対照表

(単位:千円)

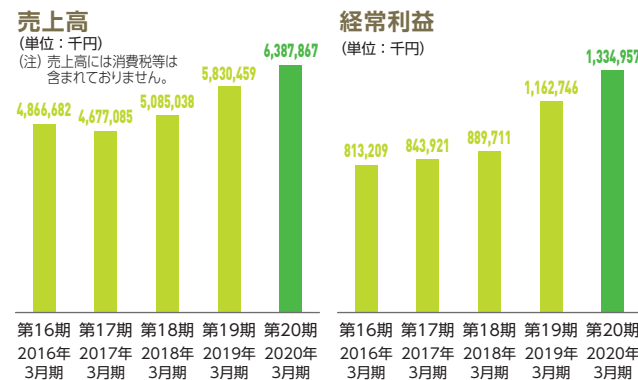
| 科目 | 前期 | 当期 |
|----------------|------------------|------------------|
| | 2019年3月31日 | 2020年3月31日 |
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 5,619,071 | 6,188,996 |
| 固定資産 | 960,392 | 847,968 |
| 有形固定資産 | 53,673 | 54,531 |
| 無形固定資産 | 38,960 | 31,882 |
| 投資その他の資産 | 867,758 | 761,554 |
| 資産合計 | 6,579,463 | 7,036,964 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 1,328,428 | 1,352,822 |
| 負債合計 | 1,328,428 | 1,352,822 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 5,110,539 | 5,551,935 |
| 資本金 | 845,490 | 845,490 |
| 資本剰余金 | 1,185,919 | 1,205,301 |
| 利益剰余金 | 3,238,028 | 3,832,952 |
| 自己株式 | △158,897 | △331,809 |
| その他の包括利益累計額 | 3,527 | △2,733 |
| 新株予約権 | 1,240 | 1,240 |
| 非支配株主持分 | 135,728 | 133,701 |
| 純資産合計 | 5,251,035 | 5,684,142 |
| 負債純資産合計 | 6,579,463 | 7,036,964 |



連結損益計算書

(単位:千円)

| 科目 | 前期 | 当期 |
|------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 自2018年4月1日 至2019年3月31日 | 自2019年4月1日 至2020年3月31日 |
| 売上高 | 5,830,459 | 6,387,867 |
| 売上原価 | 3,778,162 | 4,104,689 |
| 売上総利益 | 2,052,297 | 2,283,178 |
| 販売費及び一般管理費 | 895,522 | 951,334 |
| 営業利益 | 1,156,774 | 1,331,844 |
| 営業外収益 | 6,144 | 3,631 |
| 営業外費用 | 172 | 518 |
| 経常利益 | 1,162,746 | 1,334,957 |
| 特別利益 | 80 | — |
| 特別損失 | — | 102,177 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,162,826 | 1,232,779 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 471,732 | 467,096 |
| 法人税等調整額 | △35,727 | △495 |
| 当期純利益 | 726,820 | 766,178 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | 29,120 | 27,755 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 697,700 | 738,423 |



株式の状況 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数 23,200,000 株
 発行済株式総数 6,160,800 株
 株主数 1,376 名

大株主

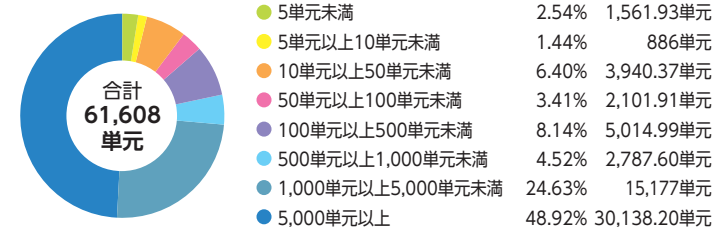
| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---|-----------|---------|
| 漆原 茂 | 2,508,600 | 44.36 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 371,500 | 6.57 |
| 高橋 敬一 | 292,000 | 5.16 |
| BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行) | 261,100 | 4.62 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 232,800 | 4.12 |
| 株式会社インテック | 220,000 | 3.89 |
| TIS株式会社 | 140,300 | 2.48 |
| 馬場 和広 | 62,000 | 1.10 |
| BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行) | 55,960 | 0.99 |
| クレディ・スイス証券株式会社 | 55,300 | 0.98 |

(注)当社は自己株式(505,220株)を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式構成比率



所有数別単元構成比率



会社概要 (2020年3月31日現在)

商号 ULSグループ株式会社(ULS Group, Inc.)
 会社設立日 2000年7月25日
 資本金 8億4,549万円
 所在地 〒104-6014 東京都中央区晴海1-8-10
 トリトンスクエア タワーX 14階
 従業員数 グループ全体: 324名
 事業内容 ULSグループは、戦略的ITによってお客様のビジネスの成功を支援するITベンチャー企業グループの持株会社です。「ユーザー主導開発™」などの手法を活用してお客様企業の収益増に貢献する戦略的ITを実現します。

役員 (2020年6月26日現在)

代表取締役社長 漆原 茂
 取締役 植松 隆
 取締役 古澤 憲一
 取締役 高橋 敬一
 常勤監査役 馬場 和広
 監査役 鈴木 明
 監査役 山田 真美
 監査役 坂田 政一

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
 基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 その他 別途公告する一定の日
 証券コード 3798
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 (同連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081
 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 公告方法 電子公告をもって行います。
<https://www.ulsgroup.co.jp/>
 ただし、電子公告とすることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載いたします。

WEBサイトのご紹介

当社ホームページにて、より詳しい事業内容やIR情報も充実させ、豊富なインフォメーションを掲載しております。どうぞご利用ください。

ホームページ

<https://www.ulsgroup.co.jp/>



ULS

GROUP

ULSグループ株式会社

〒104-6014 東京都中央区晴海1-8-10

トリトンスクエア タワーX 14階

電話 03-6220-1416(IR担当)